

平成 28 年度定時総会議事録

日 時：平成 28 年 6 月 19 日（日）11：30～13：40

開催地：産業医科大学 ラマツィーニホール

出席者：185 名、議決権行使書：3554 通

【開会】

永友副会長より開会の辞

【会長挨拶】

西浦会長より会長挨拶

【定足数報告】

諫武総務局長より、平成 28 年 3 月 31 日現在の社員総数 5384 名、本総会出席者 185 名、議決権行使書 3554 通、合計 3739 名、社員総数の 2 分の 1 以上を満たしており、定款第 18 条の規程により、本総会が成立すること、また、第 3 号議案、第 4 号議案の定款改正にともなう審議についても社員総数の 3 分の 2 以上を満たしており、審議されることが報告された。

【議長選出】

執行部一任により、加藤 正和 氏（小倉記念病院）が推薦され、満場一致で選出された。

【書記任命】

議長一任により、議長より、林 雄李 氏（製鉄記念八幡病院）、内田 博之 氏（製鉄記念八幡病院）の 2 名が推薦され、満場一致にて任命された。

【議事録署名人任命】

議長一任により、議長より、岸本 英孝 氏（新小倉病院）、平川 白佳 氏（新小倉病院）の 2 名が推薦され、満場一致にて任命された。

【議事】

議長より、第 1 号議案および第 2 号議案、関連があるため一括して議決する旨の提案があり、満場一致で承認された。

第 1 号議案：平成 27 年度事業報告の承認を求める件

西浦会長より事業報告について一括報告

第 2 号議案：平成 27 年度決算報告の承認を求める件

時吉理事より決算報告について一括報告

古島監事より監査報告

第1号議案ならびに第2号議案について質疑応答

質疑①：リハビリテーションの原点について

○林 秀俊 氏（JCOH九州病院）：

リハビリテーション・理学療法士の原点をどのように考えているのか執行部の考えを伺いたい。またその原点に関する研修会などを開催しているのか。

○西浦会長より回答：

基本動作能力の改善をはかることが理学療法の原点と考える。それを主テーマにした研修会は十分に行えていないのが現状である。今後様々な企画を通して多職種との連携も図ってきたい。

○林 秀俊 氏（JCOH九州病院）：

エビデンスのないような研修会等も数多く開催されている。

今後は日本理学療法士協会と足並みを揃えリハビリテーションの原点を明確に打ち出した県士会の企画・運営を行って頂きたい。

質疑②：福岡県女性理学療法士の課題を考える委員会について

○賀好 宏明 氏（産業医科大学病院）

現在、共働きの夫婦が多くなってきており出産育児の部分では女性のみならず男性も大きく関与している。男女の意見をまとめた委員会を発足したほうがより発展するのではないか。

○西浦会長より回答：

委員会には男性も含まれており、男性も含めたサポートを行っていく。委員会の任期は2年であるが、理学療法士の環境も変化していく中、次のステップとしてWork-life balanceもふまえて会員の職場環境などもしっかりとサポートしていきたいと考えている。

質疑③：各地区研修会について

○鈴木 裕也 氏（製鉄記念八幡病院）：

卒後教育に疑問を感じている。研修会に参加する人数が地区によって異なる原因をどのように考え、また県士会として何か対策を考えているのか。

○岩佐支部局長より回答：

現実として研修会の回数、参加率に関して各地区で差がある。対策に関しては今後検討していく。

○鈴木 裕也 氏（製鉄記念八幡病院）：

大分県理学療法士会では若手を組織へ取り込むために、同じ講師が各地区で同じ内容の研修会を開催している。今後、当士会でもそのような研修会を参考にして頂きたい。

第1号議案ならびに第2号議案の採決

→第1号議案 賛成3738名、反対1名にて承認可決された。

第2号議案 満場一致で承認可決された。

第3号議案：代議員制度導入を求める件

近藤事務局長より 1) 代議員制度について、2) 代議員制度導入に伴う定款ならびに定款細則改正の承認を求める件、3) 代議員制度導入に伴う選挙規程改正の承認を求める件について説明。

第3号議案について質疑応答

質疑①：代議員選出について

○鈴木 裕也 氏（製鉄記念八幡病院）：

議員定数は地区によって決まっているが、定数内であれば同一施設から何名でも選出されることは問題ないのか。また、議員定数を全て同一施設が占めた場合、その地区会員の意見というよりもその施設の意見として捉えられかねないのではないのか。

○近藤事務局長より回答：

所属する病院は関係なく、あくまで法人としての代議員であるため、同一施設から選出される場合も考えられる。しかし、これに反対であれば選挙へ立候補して頂きたいと考える。当士会では議員定数を同一施設が占めた場合でもその施設の意見として受け取ることとはしない。

○鈴木 裕也 氏（製鉄記念八幡病院）：

本議案に対し承認が得られればよいと思う。

○近藤事務局長より回答：

同一施設から代議員が選出されないように県士会として作為的な介入は行わない。

質疑②：代議員制度について

○林 秀俊 氏（JCOH 九州病院）：

代議員制度導入については反対である。理由としては代議員以外の一般会員の意見が届かず、代議員のみの意見となってしまうのではないのか。そのことにより、組織率の低下につながりかねない。技術・理念を明確に示し、組織率を向上させてからの導入がよい。まだ時期尚早と考える。

○西浦会長より回答：

執行部としても一般会員の意見が届くような対策は必要と考える。しかし、現時点で具体的な案はなく今後検討していく。代議員制度を導入することにより、様々な状況、社会情勢に対し定款改正など素早く対応することができ、組織の強化につながると考える。

質疑③：代議員に対する交通費支給について

○賀好 宏明 氏（産業医科大学病院）：

定款第3章第5条13項の代議員への交通費支給について、支給を行うのか、行わないのか、記載が曖昧である。金銭に関わることであり、明確にして頂きたい。

○近藤事務局長より回答：

これまでの総会については、出来るだけ多くの会員に出席して頂きたく研修会と同時開催で行っていた。今後は平日に社員総会や臨時総会の開催も考えられるため交通費の支出も必要と考える。それ以外の会議等への支給については検討しておらず現時点で詳細を決定することとは出来ない。

○賀好 宏明 氏（産業医科大学病院）：

今後明確化した上で、標記を行って頂きたい。

○近藤事務局長より回答：

執行部としては、交通費に関しては支給するというを明確に記載するというを踏まえて採決を行って頂きたい。

質疑④：定款の明瞭化について

○林 秀俊 氏 (JCOH 九州病院)：

定款細則の改正案について、支部及び地区の組織図、北九州Ⅱ地区に岡垣町の記載がない。文言等も含めきちんとした形で提示して頂きたい。このような資料を事前に会員へ配布する事も一つの方法とも考える。過去の議事録を確認してもどのような議論が交わされたかまでは不明瞭である。一般会員が分かりやすいような提示を求める。

○近藤事務局長より回答：

定款に関しては、内容の変更を伴わない事項についてはこちらで修正させて頂くことを踏まえて採決を行って頂きたい。

質疑⑤：第三者機関の介入について

○小堀 岳史 氏 (古賀病院 21)

代議員制度導入に関しては賛成である。定款改正に関して、専門的な第三者機関の介入は行ったのか。

○近藤事務局長より回答：

今回はその様な介入は行っていない。他法人の定款などを参考に作成した。

○小堀 岳史 氏 (古賀病院 21)：

当士会のような大きな組織を運営していくためには、行政書士等の専門家の介入が必要と考えるが執行部の考えはいかがか。

○近藤事務局長より回答：

第三者機関の介入も検討すべきであった。しかし現段階では、定款内容の変更となるもの以外の文言等の修正を行うことも含めて承認をいただきたい。

質疑⑥：代議員制度の明瞭化について

○今村 純平 氏 (久留米リハビリテーション病院)

代議員が恣意的な行為に走らないように一般会員に分かるような説明をして頂きたい。

○林 秀俊 氏 (JCOH 九州病院)：

代議員制度は恣意的なことを行おうと思えばできる状況にある。一般会員に対して、もっと意見を吸い上げるなどの活動を行い、組織率を高めるような活動を今後行って頂きたい。

○永友副会長より回答：

誤解があるようだが、日本理学療法士協会の代議員は業務執行及び予算に関する審議を行うためにある。従って、一般会員の要望を日本理学療法士協会へ届けるような橋渡しをする必要はないと考える。そのかわりに年1回、全国士会長会議を開催しそこで各都道府県、一般会員の要望を受けつけ、定時総会では日本理学療法士協会の運営と会計に関する審議を行うのみでよいと考える。全国士会長会議に向けて当士会では、支部や地区の組織を活用し、各施設の要望を集めている。その後、理事会で審議し、全国士会長会議へ意見を提出している

経緯がある。

当士会の代議員制度に関しては一般会員の意見が反映されていないところがあったかもしれない、今後要望を聞くシステムを検討する。

質疑⑦：福岡県理学療法士会の再編成について

○吉田 純一 氏（佐田病院）

組織率の低下が代議員制導入につながったと考えるが、福岡県理学療法士会の会員数も 5000 名を超え現在の 3 支部 8 地区の構成では会員の意見を十分に聞くことが難しいと考える。昨年より支部地区の再編成について訴えているがこれについて伺いたい。

○永友副会長より回答：

支部地区の構成に関しては、西浦会長より現在諮問を受けている。今後、総会終了後早急に組織検討委員会を開催し組織の見直し、再編について審議を行う。代議員制度の導入が承認されれば第 1 回代議員総会を臨時で開催することになる。それまでに答申を行い審議を行う予定としている。

第 3 号議案の採決

→第 3 号議案 賛成 3683 名、反対 56 名にて承認可決された。

第 4 号議案：理事の業務執行権拡充に伴う定款改正の承認を求める件

永友副会長より説明

第 4 号議案について質疑応答

質疑：質疑無し

第 4 号議案の採決

→第 4 号議案 賛成 3739 名、反対 0 名にて承認可決された。

第 5 号議案：選挙管理委員改選に関する案件

近藤事務局長より選挙管理委員（3 名）立候補者が報告され、採決が行われた。

第 5 号議案について質疑応答

質疑：質疑無し

第 5 号議案の採決

→第 5 号議案：選挙管理委員 3 名について、下記の通り採決され満場一致で承認可決された。

早川 智之 氏

田代 耕一 氏

田中 直明 氏

第 6 号議案：韓国慶尚南道理学療法士協会との MOU 締結に関する案件
西浦会長より説明

第 6 号議案について質疑応答
質疑：質疑無し

第 6 号議案の採決
→第 6 号議案 賛成 3736 名、反対 3 名にて承認可決された。

その他の議案について
提案：無し

【報告事項】

議長より、第 1 事項および第 2 事項、関連があるため一括して報告する旨の提案があり、満場一致で承認された。

第 1 事項：平成 28 年度事業計画について
西浦会長より事業計画について一括報告

第 1 事項についての質疑応答

質疑①：介護予防事業計画について

○山内 康太 氏（製鉄記念八幡病院）：

平成 28 年度の事業計画に関して、県士会が行っている介護予防事業はどのようなことを具体的にしているのか。予算 1000 万円の事業に対して効果が示されていれば教えて頂きたい。

○松崎社会局長より回答：

介護予防事業に関しては主に支部が行っている。福岡支部が転倒予防を主体とした介護予防事業を実施しているが、年 1 回の介入のため、その効果が立証できないのが現状である。来年度の計画としては、福岡市より 300 件の介護予防事業の委託があるため、効果を検証していく。県内 4 つの介護予防支援センターが行っていくモデル事業とリンクして各市町村に広がっていくように活動を行う。

○山内 康太 氏（製鉄記念八幡病院）：

地区でも啓発活動は行っているが、活動支援として取り組めていない。
県士会としてのモデル事業があれば広げていただきたい。

質疑②：学術活動について

○山内 康太 氏（製鉄記念八幡病院）：

専門部会への入会している理学療法士は多数いるが、専門・認定理学療法士を取得しているという人材を今後どのように活かしていくのか。

○廣滋学術局長より回答：

分科学会での活動をして頂き、学術大会等での査読や講師などを行って頂きたいと考えている。

○山内 康太 氏（製鉄記念八幡病院）：

専門や認定理学療法士を取得している方々に支部研修会を開催して頂きたい。

○岩佐支部局長より回答：

専門・認定取得者リストは各支部理事に配布している。その中から研修会の講師を選定して頂きたい。

質疑③：介護予防事業活動について

○今村 純平 氏（久留米リハビリテーション病院）

地域包括ケアが重要となっているなかで、3支部8地区では介護予防事業を行うのは難しいのではないかと。市町村で活動を行うにあたり県士会からのサポートは何かあるか。

○西浦会長より回答：

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の三団体で足並みを揃えていく必要がある。非会員で活動されている方もいるため、当士会としてもその対応も含め今後どうするか検討している。

○今村 純平 氏

介護予防事業に参加するにあたり、今まで非会員だった方が県士会へ入会した事例もある。県士会としての活動・サポートを是非進めてもらいたい。

質疑④：研修会内容について

○今村 純平 氏（久留米リハビリテーション病院）

地域によって研修会の内容が乖離している。ガイドラインを無視した研修会を県士会としてどのように捉えているか。

○廣滋学術局長より回答：

当士会ではエビデンスに基づいた研修会を行っている。基本的な内容を取り入れた研修会の開催を行っていく。

○今村 純平 氏（久留米リハビリテーション病院）

改善策の一つとして卒前教育の段階から対策を行っていく必要があるのではないかと。各施設内の新人教育に関しても、今後どのように行っていくのか議論していく必要があると管理研修会などでも訴えていく必要があると考える。

○廣滋学術局長より回答：

卒前教育の点からも臨床実習指導のあり方について基本に基づき実施していくことが重要である。

第2事項：平成28年度予算について
時吉理事より予算について一括報告

第2事項についての質疑応答
質疑：質疑無し

第3事項：事務所機能強化に関する内容について
永友副会長より報告

第3事項についての質疑応答
質疑：質疑無し

その他の報告事項
報告なし

【議長解任】

議長は、以上をもって本日の議事、報告事項は終了した旨を述べ、閉会した。

【閉会】

近藤事務局長より閉会の辞

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、議長、会長、議事録署名人がこれに記名押印する。

平成28年6月19日

公益社団法人福岡県理学療法士会総会

会 長 印

議 長 印

議事録署名人 印

同 印